周恩来

偉大な十年

外文出版社
北京

周恩來　偉大な十年

1959年12月　初版発行

出版者　外文出版社
中華人民共和国
北京阜成門外百万莊

編号：（日）3050—276

周恩来

偉大な十年

外文出版社
北京

偉大な十年

周恩来

中華人民共和国が成立十周年を慶祝しているときに、世界の人びとは、その政治的見解の如何をとわず、すべて、中国で真に天地をくつがえすような変化が生じたことを認めざるをえないでいる。中国人民は、人間地獄の奴隷から一変して、なにものをも恐れぬ、自己の運命の主人公となつた。全国の人民は、喜びをこめてすでにおさめた偉大な勝利をふりかえると同時に、満々たる自信をもつて将来に目を向けている。

われわれは、中国が十年らいいつたいどんな変化をとげたか、なぜこれらの変化がおこつたのか、人びとはこれらの変化のなかからどういう主要な教訓をくみとることが出来るかについて見てみよう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

周知のように、十年まえの中国は、経済的に極度におくれた国であつた。当時中国は、世界各国のなかで、鋼鉄の生産量が第二十六位、発電量が第二十五位で、採炭量はいくぶん多く、第九位をしめ、わりあい発達していた綿紡績工業の製品——綿糸の生産量でさえ第五位をしめるにすぎなかつた。全国の産業労働者はわずか三〇〇万人で、全国人口の千分の六にもみたなかつた。老大国の中国はまえまえから農業をもつて国を立てると稱していたが、解放まえの数十年間というもの、小麦、米、綿花は毎年外国から輸入しなければならなかつた。税関の統計によると、一九三三年には食糧を六〇億斤* 輸入し、一九四六年には綿花を六九〇万担** 輸入している。対外貿易はながいあいだ輸入超過で、国家の財政は年々赤字であつた。一九三七年七月に抗日戦争がはじまつてから一九四九年五月までの十二年間に、国民党反動政府の通貨は一四〇〇余億倍増発され、物価は八兆五〇〇〇余億倍はねあがつた。

当時の中国の状況はこんなにみじめだつたので、アメリカの国務長官マーシャルでさえ、一九四八年二月にアメリカの上下両院の外交委員会常任委員会でよみあげた声明のなかで、アメリカがたえずつぎこんでいる大量の援助も中国の経済危機を救うすべがないことを認めざるを

えず、しかも、「中国は原料と工業資源に欠けており」、ちかい将来第一流の強国となることはむずかしい、と断定したのであつた。マーシャルのあとをうけて国務長官となつたアチソンは、一九四九年八月にアメリカ大統領トルーマンにあてた手紙のなかで、「人民に飯を食わせる問題を解決すること」についての中国共産党の「種々の約束」をあざ笑い、この問題では中国のいかなる政府も成功することはありえない、と予言したのであつた。

ところが、ちようどその一九四九年の六月に、毛沢東同志は、北京における人民政治協商会議準備会の開会式上で、「中国の運命がひとたび人民自身の手ににぎられるや、中国が、まさに太陽の東からさしのぼるように、自己の輝かしい光芒であまねく大地を照らし、反動政府ののこした汚れを急速に洗いおとし、戦争の痛手をりつぱに癒し、真新しい、強力な、繁栄する、名実ともにそなわつた中華人民民主共和国をきずきあげてゆくのを中国人民は見てとるであろう」とおごそかに宣言したのであつた。

誰の予言があたつただろうか？

調整後の一九五九年の計画の完成予定数字によれば（この計画の大部分の指標が超過完遂さ

れることは現在すでに見てとることが出来る）、わが国の工農業生産総額は一九四九年にくらべて四・三倍ふえ、そのうち工業生産総額は一〇・七倍ふえるであろう。鋼鉄の生産量は一二〇〇万トンにたつし、一九四九年の一五万八〇〇〇トンにくらべて七五倍ふえ、採炭量は三億三五〇〇万トンにたつし、一九四九年の三二四三万トンにくらべて九倍あまりふえ、発電量は三九〇億キロワット時にたつし、一九四九年の四三億一〇〇〇万キロワット時にくらべて八倍あまりふえ、綿糸の生産量は八二〇万梱にたつし、一九四九年の一八〇万梱にくらべて三・五倍ふえるであろう。一九五八年には、わが国の鋼鉄、石炭、発電量、綿糸は、世界の第七位、第三位、第十一位、第二位にそれぞれ躍進した。旧中国では百年ちかくにわたつて現代工業の建設をおこなつていながら、一九四九年になつても工業の固定資産はなお一三〇億元たらずだつたのに、新中国の十年間に新しくふえた工業の固定資産は四五〇億元前後にたつしている。旧中国の発電事業の発展は七十年ちかくにおよんでいるが、一九四九年になつても発電能力はなお一九〇万キロワットたらずだつたのに、新中国の十年間に新しくふえた発電能力は、この数字の三倍以上に等しい。旧中国の鉄鋼業の建設は六十年ちかくにおよんだが、一九四九年に

なつても製鋼能力はなお一〇〇万トンたらずだつたのに、新中国の十年間に新しくふえた製鋼能力はこの数字の十倍以上をうわ回つている。

帝国主義分子は、われわれの調整いごにおける一九五九年の計画を「大躍退」だとあざ笑つている。周知のように、一九五八年はわが国の工農業生産が特大躍進をとげた年であり、実際と照合した工業生産総額は一九五七年にくらべて六六パーセントふえている。調整後の一九五九年の工業の指標は、特大躍進をとげた一九五八年の工業生産総額にくらべてやはり二五・六パーセント高い。あきらかにこれは、特大躍進の基礎のうえにおける、ひきつづく大躍進である。こうした躍進の速度は、帝国主義国の夢にも考えられないところである。では、われわれの発展速度を、二つの主な帝国主義国とくらべてみよう。一九五〇年から一九五八年までの九年間に、わが国の工業生産総額は毎年平均二八パーセントふえているのに、アメリカは三・七パーセント、イギリスは二・九パーセントであつた。わが国の工業が特大躍進をとげた一九五八年に、アメリカの工業は前年より六・五パーセント低下し、イギリスは〇・九パーセント低下している。もしもわれわれの速度を「大躍退」だというのなら、かれらの速度をいつたいな

んと呼ぶべきか？　尋ねてみたいものである。

ブルジョア評論家たちは、われわれの大躍進の偉大な意義をおとしめるため、さらにもうひとつの尤もらしい謬論をのべたてている。かれらは、中国の発展速度のはやいのは中国のもとの水準があまりにも低いからにほかならない、といつている。だが、実際の状況はいつたいどうだろうか？　われわれの発展速度は、毎年の平均増加率にしめされているばかりでなく、毎年の絶対増加数にもしめされている。わが国の鋼鉄の生産量は、一九四九年には一五万八〇〇〇トンであつたが、一九五九年には一二〇〇万トンにたつする予定であつて、つまり、十年間に一一八四万二〇〇〇トンふえているのであり、これはアメリカの歴史上で一八七二年から一九〇一年までの二十九年間にふえた量にほぼひとしく、あるいはまたイギリスの歴史上で一八六九年から一九三六年までの六十七年間にふえた数量に相当している。なぜアメリカやイギリスはその当時中国の現在のような躍進的な速度で発展できなかつたのか？　ブルジョアジーの詭弁家諸君、諸君はさらにどんな論拠をもち出して、資本主義国ののろのろした発展速度について弁解することが出来るだろうか？

工業、とりわけ重工業のこうした急速な発展によつて、わが国の国民経済のしくみにはいちじるしい変化が生じた。工業生産総額が工農業生産総額のなかでしめる比重と生産手段の生産額が工業生産総額のなかでしめる比重は、一九四九年にはそれぞれ三〇パーセントと二六・六パーセントだつたのが、一九五八年にはすでにそれぞれ六三・六パーセントと五七・三パーセントにふえている。いまでは、われわれはすでに約五〇〇種類の鋼鉄、六〇〇〇種類の鋼材、多種多様の新式大型工作機械、二五〇〇トンの鍛造用水圧プレス、採炭およびコークス製造用のプラント、一五〇〇立方メートル余の大型高炉設備、ジェット機、各種の自動車、トラクター、積載トン数五〇〇〇トンの汽船、七万二五〇〇キロワットの水力発電設備と五万キロワットの火力発電設備、紡績、製紙、製糖用のプラント等々を自力で生産しはじめている。工業の分布にもいちじるしい変化が生じた。鉄鋼業はもとはその九割以上が東北に集中していたが、いまでは、チベットいがいの各省、市、自治区のすべてに、大小の鋼鉄基地が多かれ少なかれ建設されている。発電所は、もとは少数の大都市と工業基地に集中していただけであつたが、いまでは全国の大、中、小の各都市から若干の農村にいたるまで、すべて規模のことなる発電

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

所を擁している。紡績工業は、もとは主として上海、青島、天津、無錫などいくつかの都市に集中していたが、いまでは全国の多くの省にあまたの新型紡績工場が新設されている。内蒙古、新疆、青海、甘粛などいぜん荒れはてていた多くの僻地や人口の大へんすくなかつた都市にも、いまではすでに大規模な工業基地が出来ている。こうした事実はすべて、わが国の工業化の基礎がすでにうちたてられたことを物語つている。世界のいかなる力といえども、わが国があまり長くない期間内に、繁栄した、富強な大工業国へと発展するのを阻むことは出来ないのである。

われわれは、工業を発展させるにあたつて、農業を発展させることを決して忘れなかつた。十年間に、わが国の農業生産総額は一・五倍ふえるであろう。一九五九年の食糧の収穫高は五五〇〇億斤にたつし、一九四九年の二一六二億斤にくらべてこれも一・五倍ふえるであろうし、綿花の収穫高は四六二〇万担にたつし、一九四九年の八八九万担にくらべて四・二倍ふえるであろう。わが国の食糧の総収穫高は、一九五二年から世界第一位をしめており、綿花の総収穫高は昨年は世界第二位であつた。もちろん、人口一人あたり平均の計算では、わが国の農

業の水準は、工業の水準と同様に、まだきわめて低い。だが、問題の鍵は発展の速度である。わが国の農業機械と化学肥料はまだひじように少なく、それにひきかえアメリカはわが国よりいく倍多いか分からないほどもつているにもかかわらず、一九四九年から一九五八年までに、わが国の食糧の収穫高は一三〇パーセントふえたのに、アメリカでは二五パーセントふえたにすぎないし、わが国の綿花の収穫高は三七二パーセントふえたのに、アメリカではかえつて二八パーセント減つている。

農村における基本建設は急速に発展をとげている。解放当初、全国の灌漑面積は二億四〇〇〇万ムー＊＊＊にすぎなかつたが、すぐる十年間に、大量の農地水利と貯水池の工事をおこしたため、灌漑面積はすでに一〇億ムー以上にたつしている。農村ではさらに、主として農業に奉仕する、おびただしい数にのぼる小型の工場を新設した。農業と緊密なつながりのある林業、畜産業、副業、漁業もいちじるしい発展をとげた。一九四九年から一九五八年までに、全国の造林面積は累計五億ムーにたつし、大家畜は六〇〇〇万頭から八五〇〇万頭にふえ、豚は五七〇〇余万頭から一億六〇〇〇万頭にふえた。

工農業の発展に呼応して、交通運輸業もひじょうな発展をとげた。一九四九年のわが国の鉄道の運行キロ数は二万二〇〇〇キロにみたなかつたが、一九五八年にはすでに三万一〇〇〇余キロにふえた。現在、全国の各省と自治区では、チベットをのぞいて、すべて鉄道が通じている。おなじ期間内に、自動車道路は、八万キロから四〇万キロにのびた。一九五〇年のわが国の民用航空路は一万一〇〇〇余キロにすぎなかつたが、一九五八年にはすでに三万三〇〇〇キロにのびた。貨物の輸送トン・キロ数は、一九四九年から一九五八年までの九年間に、鉄道は九倍あまり、自動車は二六倍あまり、汽船と艀は九倍あまりそれぞれふえた。機械化されていない木造帆船、畜力車などによる輸送もいちじるしい発展をとげた。九年間に成渝（成都——重慶）鉄道、宝成（宝鶏——成都）鉄道、鷹厦（鷹潭——厦門）鉄道、天蘭（天水——蘭州）鉄道、包蘭（包頭——蘭州）鉄道、武漢揚子江大鉄橋、青海・チベット自動車道路、西康・チベット自動車道路、新疆・チベット自動車道路など多くの大建設工事が完成をみたし、目下建設中のものには蘭新（蘭州——新疆）鉄道、川黔（四川——貴州）鉄道、内昆（内江——昆明）鉄道、湘黔（湖南——貴州）鉄道などと揚子江、黄河をまたぐいくつかの大鉄橋がある。おび

ただしい簡易自動車道路の建設によつて、一九五八年には全国の九七パーセントの県城に自動車が通じるようになつた。郵便・電信・電話と放送事業もひじように急速な発展をとげた。全国の郵便・電信・電話関係の機構は、一九四九年の二万余カ所から、一九五八年には六万余カ所にふえた。全国農村の人民公社はその九八パーセントまで電話が通じている。

一九五八年のわが国の商品小賣額は一九五〇年にくらべて二・二倍ふえた。各種のおもな消費物資の販賣量を一九五〇年にくらべると、食糧は六二パーセント、食用植物油は九七パーセント、食塩は九四パーセント、砂糖は三倍、水産物は二・四倍、綿布は一・二倍、機械製紙は二・七倍それぞれふえている。消費物資の供給がたえずふえ、投機商人が徹底的に一掃され、国家の財政収支の平衡と銀行の信用貸付の平衡がとれたため、一九五〇年いらい、わが国の物価は一貫して安定をつづけており、わずかに工農業生産品の比価について若干の計画的な調整がなされたにすぎない。

十年らい、わが国の対外貿易もきわめて大きな変化をとげた。一九四九年に、中国革命が勝利していご、税関の管理権は帝国主義の手から回収され、輸出入貿易の面で長いあいだつづい

ていた輸入超過という局面も好転しはじめた。一九五八年の全国輸出入貿易総額は一九五〇年にくらべて二・一倍ふえ、そのうち輸入は一・九倍、輸出は二・三倍ふえており、輸出入は基本的に平衡を保つている。輸入物資は、解放まえ消費物資が主であつたのとは反対に、九〇パーセント以上が機械設備、原料、材料などの各種生産手段であつて、これはわが国の経済建設にとつてきわめて大きな役割をはたしている。わが国の輸出物資はまだ主として農産物であるが、輸出のなかで工業製品のしめる比重も、一九五〇年の九・三パーセントからしだいにふえ、一九五八年には二七・五パーセントにたつしている。

まさしく毛沢東同志が予見したように、「経済建設の高まりの到来にともなつて、不可避的に文化建設の高まりがあらわれる」。一九四九年から一九五八年までに、全国の大学・専門学校の学生数は一一万七〇〇〇人から六六万人にふえ、四・七倍増大し、中等実業学校の生徒は二二万九〇〇〇人から一四七万人にふえ、五・四倍増大し、一般中学校の生徒数は一〇四万人から八五二万人にふえ、七・二倍増大し、小学生は二四四〇万人から八六〇〇万人にふえ、二・五倍増大した。一九五八年には、多くの縣や市では基本的に小学校教育が普及し、全国の

学齢児童の八五パーセントがすでに入学している。労働者・職員、農民および都市の住民のあいだにおける文盲一掃運動と業余の補習教育も、非常な進展をとげている。各級の学校では、「教育はプロレタリアートの政治に奉仕し、教育と生産労働をむすびつける」という党の方針をつらぬきとおし、こうして教育戦線で社会主義革命をふかく展開したのであつた。

科学研究活動は、十年らい、非常な発展をとげている。一九五八年末までに、全国に専門の自然科学・技術研究機関は八四〇余カ所を数え、研究人員は三万二〇〇〇余人にたつし、解放当時にくらべてそれぞれ二〇倍と五〇倍ふえている。

おなじ期間内に、出版事業や映画、演劇その他の芸術事業はすべて巨大な発展をとげた。

十年らいの衛生・保健事業の発展も非常にはやい。一九五八年の全国における病院、サナトリウムの数は五六〇〇余カ所、ベッド数は四四万で、一九四九年にくらべて四倍あまりふえている。このほかさらに、九〇余万の簡易ベッドが新設され、小都市と農村に分布している。一九五八年には、わが国の衛生技術人員は二一六万人にたつし、一九五〇年の七八万人にくらべて一・八倍ふえている。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com